

越後平野における生態系ネットワーク形成行動計画（2035）[案] <概要版>



全体構想 基本理念

越後平野におけるガン類・ハクチョウ類・トキが舞う地域のにぎわいを目指して

全体構想 基本方針

- 生態系ネットワークの基盤となる水辺をはじめとした環境の保全・再生
- 良好な水辺等の環境を活かした地域の活性化

越後平野における生態系ネットワーク形成の考え方

- * 生態系ネットワークの軸となる信濃川や阿賀野川、拠点となる多くの「潟」、指標種の主な採食場所である「農地」等をつなぎ、健全な生態系を維持し、生物多様性を保全する
- * 指標種の特性を考慮した、様々なスケール（局所的～広域的）の生態系ネットワークの視点から取組を進める

実施体制

- ▶ 対象地域：越後平野
- ▶ 指標種：ガン類・ハクチョウ類・トキ
- ▶ 推進体制：推進協議会、連絡会、生息環境検討部会、自然環境活用部会（学識経験者、国、県、市町村、企業、市民団体等で構成）

- ▶ 計画期間：2025年～2035年
（短期目標年度：2030年、中期目標年度：2035年）
- ▶ 進行管理：年次確認→中間評価（2030年）
⇒総合的評価（2035年）⇒次期計画の検討

目標カテゴリと計画項目（*：目標カテゴリ、(1)～：計画項目）

生息環境づくり

- * ガン類・ハクチョウ類
- * トキ
- * 計画項目(5)を除き、ガン類・ハクチョウ類、トキ共通

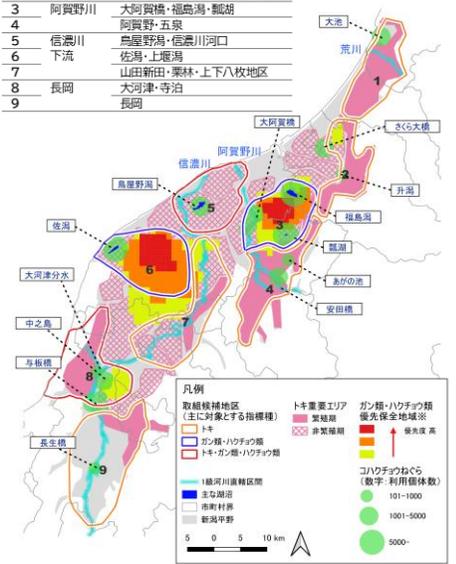
 - 調査・評価・影響緩和
 - グリーンインフラやEco-DRRの検討を踏まえた、河川における環境整備の実施
 - グリーンインフラやEco-DRRの検討を踏まえた、潟・池における環境整備・維持管理の実施
 - 農地における環境整備の実施
 - 林地における環境整備の実施（※トキのみ）
 - 指標種の生息状況等に対応した鳥獣保護区等の設定
 - 人工構造物による影響の軽減
 - 人・車等の接近による個体への悪影響防止の啓発

人・地域づくり

- * 支援体制の構築
 - 指標種をシンボルとした環境づくり・地域づくりの方策検討
 - 人材の育成および供給等による支援体制の検討
 - プロジェクトの継続・発展に向けた仕掛けづくり
- * 広報
 - 生態系ネットワークに関する理解や参加意向の把握
 - 広報ツールの検討
 - イベントの検討
- * 環境学習
 - 自然環境学習の状況の把握
 - 自然環境学習ツールの検討
 - 学習イベント・プログラムの検討
 - 人材育成の検討
 - 講師・アドバイザー派遣の検討
 - 学校外での自然環境学習の推進
- * 地域振興：観光
 - 観光資源の検討
 - 観光商品の検討
 - ガイド運用の検討
 - 地域資源となる場所へのアクセスの検討
- * 地域振興：農業
 - 生産者（農業者）に向けた取組
 - 需要家・消費者等に向けた取組
- * 地域振興：その他
 - 豊かな自然環境を活かした健康づくりの検討
 - 活用拠点の整備

優先的に取組む地区

No.	エリア	地区名
1	村上・胎内	大池・荒川河口・胎内川下流
2	新発田	さくら大橋・湖形地区・八幡新田
3	阿賀野川	大阿賀橋・福島潟・瓢湖
4	阿賀野・五泉	阿賀野・五泉
5	信濃川	鳥屋野潟・信濃川河口
6	下流	佐海・上堰潟
7		山田新田・栗林・上下八枚地区
8	長岡	大河津・寺泊
9		長岡



特に指標種の生息適性が高く、ガン類・ハクチョウ類が多く飛来する「3:大阿賀橋・福島潟・瓢湖」地区から、具体的な取組に向けた検討を進める

実施主体の主な役割

各主体が相互に連携することにより、生態系ネットワーク形成の効果的な推進が可能

協議会・部会
方向性の検討
全体調整

国
施策への反映

県・市町村
施策への反映
住民への支援・助言

学校(教育機関)
環境学習の実践

大学(研究機関)
調査研究・分析
情報共有

団体
普及啓発活動
人的・経済的・広報支援

企業
商品やサービスの開発
人的・経済的・広報支援

地域住民にできること

- 第1段階：知る
- 第2段階：行動する